

伊丹小学校 創立150周年

たくましく生き続ける学び舎



郷土研究 伊丹公論

復刊
第32号
通巻51号

年3回発行

発行所
伊丹市立図書館ことば蔵
〒664-0895
伊丹市宮ノ前3-17-14
TEL 072-784-8170
編集
伊丹公論編集委員会

伊丹小学校が創立150周年を迎えた。明治6年(1873)に私立小学校として開校し、幾多の困難を乗り越えながら現在も歩み続ける同校の軌跡を紹介する。

私立小学校として開校

江戸時代、伊丹は酒造業で栄え経済的に発展するとともに、酒造家たちは文化活動への強い関心を持っていた。天保9年(1838)、昆陽口村(現・宮ノ前1丁目)に、明倫堂が創設された。初代教頭には、橋本香坡氏を迎え、明治元年(1868)に廃止されるまで、明治期



の近代教育を担う人材を育ててきた。明治5年8月、明治政府が学校の在り方を定めた「学制」を公布する。伊丹においても酒造家小西新右衛門氏を中心となつて、翌年3月に県下で唯一となる私立の「伊丹小学校」を創設する。開校当初、明倫堂で学んだ伊丹出身者や、外国人から洋学を学んだ教員が在籍し、私立ならではの洋学教育を重視した高等教育が行われたと考えられる。

また、学校の経営にあたっては「伊丹小学校貸付会社」を設立し、貸付金の利子を学校の運営資金に充てようとしていた。しかし、十分な資金調達は難しく、その維持費の大半は、小西氏をはじめ有志の寄付金で賄われたという。私立ならではの大変な苦労があった



伊丹小学校の落成式(明治20年)と伊丹小学校重艦校舎の前で(昭和28年頃) 市立伊丹ミュージアム提供

ようだ。

公立小学校としての歩み

明治15年、公立小学校(尋常小学校)として新たにスタートし、翌年には生徒数も64人となった。明治20年には、鐘楼のそびえ立つ洋風2階建ての立派な新校舎Ⅱ写真右下Ⅱが建設された。学校の場所も、明治33年には戎町(現東りいたみホール裏)に移転し、その後、現伊丹小学校の敷地へと移転している。生徒数も、明治から大正期には年々増加しており、昭和16年には、全生徒3395人、60学級の編成となった。

昭和から平成を経て現在へ

昭和15年、伊丹町が稲野村と合併し伊丹市になると、同校も

「伊丹市立伊丹尋常高等小学校」と改称され、翌年には太平洋戦争が始まる。戦時下においては、市内にも空襲による被害があり、敷地内には防空壕が掘られた。卒業生や生徒保護者等にも多くの戦没者があったことから、慰霊祭を開催したとの記録がある。

戦時下の混乱期を経て終戦を迎えると、小学校令発布と共に現在の「伊丹小学校」に改称された。今から50年前の「百周年記念誌」によると、昭和30年以降の高度経済成長期には、生徒数が急激に増加したとある。昭和58年には創立110周年を迎え、現在の酒蔵風の新校舎Ⅱ写真上Ⅱに生まれ変わった。

旧校舎Ⅱ写真左下Ⅱは正面から見た姿が戦艦に似ていたため「軍艦校舎」と呼ばれ親しまれていた。当時の新聞の見出しには「軍艦校舎さようなら」とあり、旧校舎はまちのシンボルとして大きな存在であったと思われる。平成に入ると景気の後退に加え、平成7年1月に阪神・淡路大震災が発生。伊丹市においても、多数の建物が倒壊するなど大きな被害を受けた。伊丹小学校区においても阪急伊丹駅の倒壊や家屋損壊等がみられ、体育館には多くの市民が避難した。この大きな災害の経験と記憶は、現在の防災や地域連携への意識をより強めることとなった。

こうした時代の変遷とともに、伊丹小学校は歩んできた。この学び舎を巣立った卒業生たちが、これからも郷土伊丹をけん引していくことを願っている。

150周年を迎えて



市立伊丹小学校長 磯田 かおり

伊丹小学校の創立150周年記念式典が、令和4年10月22日に、東りいたみホールにおいて開

催されました。その前年には、地域やPTAの方々などで構成された創立150周年記念事業「実行委員会」が設立されました。この実行委員会では、創立150周年の節目の式典は子どもたちを主役にしてやりたいと、子どもたちの心に残る思い出にすることを願って計画が進められました。たくさんの方々の愛情や温かいつながりを肌で感じ、子どもたちにはますます自分の通う伊丹小学校に誇りをもち、そこで学ぶ自分に自信をもってほしいと願っています。

150年の間には、世界大戦や阪神・淡路大震災をはじめ幾多の困難や世相の変遷があったことと思いますが、本校を卒業されたたくさんの方々、各地で活躍されています。現在も地球温暖化による気候変動や災害の多

発、新型コロナウイルス感染症拡大等々、先行き不透明で心配な状況が続いています。それでも、本校で学ぶ子どもたちには、困難に負けず、柔軟な思考力と人を大切にする優しさを力にして、未来社会をたくましく生き抜いてほしいと思います。この度、伊丹小学校地区自治協議会の皆様から、新しい校旗Ⅱ写真Ⅱを寄贈していただきました。真新しい校旗には、伊丹小学校を大切に思い、子どもたちの健やかな成長を願うてくださる地域の方々の熱い思いが詰まっています。創立150周年を迎えたこの機に、今までの思い出がいつばい詰まった旧校旗とパトナタッチをします。これからの新しい時代も、伊丹小学校で仲間と協力し、たくさんの方々の経験をおして、夢や希望をもち明るく成長していく子どもたちの活躍を見守り続けてほしいと願っています。

「郷土研究伊丹公論」は、私立伊丹図書館を開設した小林杖吉(筆名「丹城」)が、昭和11年(1936)1月20日に創刊し、19号まで発行された地域紙。ことば蔵では、伊丹公論を73年ぶりに復刊し、伊丹の歴史・文化を全国に発信するため、市民と共に発行しています。

10周年記念イベント「みんなの寺子屋」開催

子どもも大人もみんな先生、生徒!

7月23日(土)、ことば蔵10周年記念イベントとして「みんなの寺子屋」が開催された。

「みんなの寺子屋」は、年齢に関係なくだれもが先生となり、自分の得意なことやよく知って

いること、伝えたいことの授業をするイベントだ。今回は9つの授業が行われ、大人5人、子ども7人、合計12人の先生が登壇した。ここでは子どもが先生を務めた授業から2つを紹介する。



飼育している昆虫を紹介する竹野さん



クイズを出題する多屋さんと酒井さん

春夏秋冬飼える昆虫たち

昆虫学者を目指す竹野一輝(小学6年生)さんは、身近な昆虫やそれぞれの季節で出会える昆虫について授業をした。紹介された昆虫は、全て竹野さんが採取した、もしくは飼ったことがある昆虫だ。また、昆虫が存在しないと地球環境はどうなるか等大人も興味をそそられる考察もあった。授業中はメモを見ることが

出張!漢字芸閣

中学3年生の多屋翔太郎さんと酒井優さんは漢字の授業を行った。タイトルの「漢字芸閣」とは、中学校で発行している漢字の魅力を紹介する通信の名前であり「芸閣」は「書庫・書齋」という意味だ。2人は中学校の漢字検定促進プロジェクトのメンバーとして、同通信の発行に携わっている。今回は出張版として、寺子屋に参加。クイズ形

なく話しきり、どんな質問にも淀みなく答える知見の深さは、参加者を驚かせた。アドリブでリュックの中にある、昆虫採集用の捕獲トラップや、噛まれた場合の解毒薬などについて、時間が許す限り解説する姿はまさに昆虫博士だ。

授業後、竹野さんは「参加者が多くて、大人がきちんと聞いてくれて、たくさん質問もしてもらえて嬉しかった」と話していた。

式で漢字の奥深さを伝えた。クイズはいわゆる難読漢字の読み方や、現存する漢字の総数、熟語の由来を問うものなど多岐に渡った。他にも、参加者がクイズを考え、2人が答えるコーナーもあり、授業は盛り上がりを見せた。

授業の終わりに、「漢字や言葉には、それらを使ってきた人々の思いや文化、歴史が詰まっております、その世界は奥深く興味を尽きることはない」と語った。先生を務めた2人の漢字への浪漫の一端を、共有できなかったのではないだろうか。

参加者の1人は「子どもの先生が楽しそうに話していて、一生懸命さが伝わってきた」と話した。様々な年代の先生がイキイキと話す姿に、「自分の好きを表現したい」と同じように心動かされた参加者も多かっただろう。再び「みんなの寺子屋」が開催されることを期待したい。



賑わった宮前商店街

宮前商店街 西田商店 大正11年頃
市立伊丹ミュージアム提供



現在、猪名野神社前で営業している西田写真館の今から百年ほど前(大正11年頃か)の写真を見つけた。セピア色の懐かしい写真。写っている

のは、店主の西田宏和さんのお祖母さんと、犬を引いているのはお母さんか。その頃は西田写真館ではなく西田商店として、餅、饅頭、菓子などの製造販売をしていた。

宮前商店街は、呉服、菓子、饅頭、雑貨、時計、種苗、薬、

文房具などあらゆる業種の店が並び、尼崎から宝塚、川西からも人が集まり年末の誓文払いのときは、大阪の心斎橋通りほどの賑わいをみせたという。私が市民になった戦後まもない昭和21年(1946)も、その名残があり、威勢のいい掛け

声飛び交い、買い物は全部そこで揃った。子どもにも親切なお店はどこも顔なじみ。おっちゃんや、おばちゃんが、快くおまけをくれたり、縁台に腰かけてかき氷を食べたり、懐かしい商店街だった。(郷土史研究家 森本 啓一)



伊丹俳壇

「秋刀魚」坪内稔典 選
(市立伊丹ミュージアム名誉館長)

最優秀賞

おりかえす半生うらがえす秋刀魚
藤田 晋一(宝塚市)

「おりかえす半生」と「うらがえす秋刀魚」の対句的表現が見事。半生と秋刀魚が同格的になって哀感とおかしさを漂わせている。「おりかえす」と「うらがえす」の微妙な違いもまたこの句の味を深めている。

優秀賞

- 秋刀魚食うあなたの浮気知っている 大野 美波(埼玉県人間市)
- 故郷の家を売る日の秋刀魚かな 益田 信行(神戸市)
- 秋刀魚には胃がなくて腹寂しそう 吉川 拓真(さいたま市)
- 秋刀魚焼く口と尾がはみ出したまま 平良嘉列乙(千葉県松戸市)
- ブルーインパルスが六機秋刀魚焼く堺 紀彦(滋賀県高島市)

伊丹歌壇

「遊園地」尾崎まゆみ 選
(玲瓏)選者編集委員。神戸新聞文芸短歌選者。現代歌人協会会員)

最優秀賞

父さんと母さんに手を振らなくちゃ
回転木馬に跨るときは
池本椿(尼崎市)

遊園地は別世界。楽しいけれど遊んでいるうちに、幼い頃を思い出したりする。そう回転木馬に跨ると幼い頃にもどって父と母探してしまうあの感じ。ちよっぴり複雑な心境が「振らなくちゃ」にある。

優秀賞

- おそろいのカチューシャをしてダンボらの駆けゆく空はひとときわ青く
菅澤 真央(神戸市)
- ゆあゆん中也の忌には遊園地観覧車から海を見ていた
井上火水(宮城県岩沼市)
- 閉所とか無理だからなんも乗れんけど君と観覧車を見てみたい
枇杷 陶子(大阪府高槻市)
- 駆けてゆくメリゴーランドの馬に乗りノッティングヒルの青い書店に
知地 一代(神戸市)
- 工場の夜景めぐりに組み込まれインボー観覧車稼動中
渡辺 啓子(神戸市)

次回の兼題は、俳壇は「あのね」、歌壇は「夢」とします。応募は1人各1作品、自作未発表作品に限る。応募締切は12月15日(必着)。伊丹俳壇の最優秀賞には図書券千円を、また伊丹歌壇の最優秀賞には、「ゴダールの悪夢」(尾崎まゆみ著)を進呈。下のQRコードを利用すると、スマートフォンからも応募できる。問い合わせは、ことば蔵へ。

現代人物 風景

趣味は、人を助けるボランティア。普喜正隆さんは、市内中野にある常休寺の住職として、仏の教えを人々に伝えていく。その一方で、防災士として「伊丹防災士の会」の会長を務め、一般社団法人水難学会の主



写真協力 西田写真館

命の大切さを伝える和尚 JWLT 代表 伊丹防災士の会 会長 普喜正隆さん(52)

カウトに入団し、数多くのレスキュー研修を受け、その経験を活かして大人になってからも、同団の指導員を続けてきた。人命救助の大切さに改めて目覚めたきっかけは、26歳で入団した地元の消防団の活動を通じて、レスキュー隊員から水難救助を学んだことだ。退団後は自ら水難救助の団体 Japan Water Active Life-Saving Team (略称 JWLT) を設立した。

地域との連携活動も積極的に、5年前からは宝塚や伊丹の小学校で小学5・6年生を対象の着衣水泳訓練を実施している。他にも大人を対象とした避難所設営・運営のシミュレーションや水難発生時のロープやペットボトルを使った救助の訓練など実践型の講習会も開催している。講座や講習会では、参加者が知識だけでなく、ヒラメ


キや気づきを得られるように、年齢や職業、グループに応じて内容を考えると、パリエーションを増やすため、自身のスキルアップも欠かせない。

普喜さんは「多くの人が今ある命の大切さを学び、自らや身近なひとの命を守る手段を身につけることで、社会全体の防災・救助の意識は高まる。僧侶である私がすすんでしなければ!という使命感が活動を続けるモチベーションとなっている」と語る。

これからの、伊丹での地域貢献と趣味のボランティアをとおして、人を助ける活動を続けるという。常に休むことの無い住職である。

(細尾 哲也)

伊丹防災士の会のホームページはこちら↓



老舗探訪



あさひ
定休日 毎週月曜日(祝日の場合は火曜日)
伊丹市東野1-69 TEL.072-784-4959

ひっそりとした住宅地に構える存在感ある昭和レトロ風の飲食店。店頭のメニュー陳列棚に飾られた昔ながらの食品サンプルが昭和の伝統を伝える。店名は「昇る太陽のような勢いと輝き」にちなんで「あさひ」とネーミングした。

昭和2年(1927)、現在の伊丹市清水に食堂を創業。現在のサンロード商店街(中央)にあった清涼飲料水の製造工場の従業員用食堂を経て、同46年に現地に移転した。

看板の人気メニューは日替わりの「気まぐれサービズ」(みそ汁付き)。主にチキンカツやとんかつ、ハムエッグなどの定食(通常税込み千円)を700~900円で提供。カツは大

「新鮮な素材のうまさを最大限引き出すよう努力し、作りたてのおいしい手料理をお出しするよう工夫しています」と3代目のオーナーシェフ、松田和彦さん(68) 写真右。注文を受けて初めて冷蔵庫からエビを取り出して殻をむく。新鮮な素材に対するこだわりを目撃した利用客はびっくりするという。接客担当の妻、初江さん 写真

左と二人三脚で店を支える。松田さんは高校時代から、京阪神の飲食店を食歩き、大胆にも店から直接、おいしい料理のレシピを聞き出し、新たなメニューの開発に生かした。料理に対する飽くなき探究心が100種以上のメニューを一人でこなす原動力になっている。

あと5年で創業100年の節目を迎える。連綿と続く地域密着型店舗は親子代々、のれんをくぐる多くのなじみ客を育んだ。「お客さまに腹いっぱい食べてもらい、『うまかった。また来るわ』と満足して帰ってもらうのが喜び」と松田さんは笑顔で話す。根っからの料理人である。

「あさひ」営業時間 10時30分~21時(ラストオーダー20時30分) テーブルとカウンターが計40席 店内にコミック本300冊あり (奥山 正弘)

郷土 一服の茶は一期一会の出会いなり 土産品 紹介 茶道 香島園



Viva伊丹サンロード商店街に一風変わった茶壺の看板が目目を惹く「茶道 香島園」。店内には、「村重」や「有岡城」等伊丹にゆかりのある名前のお茶が並ぶ。

香島園の茶は、宇治、静岡、知覧等の産地から仕入れた茶葉を店主である芝田精依子さん 写真IIの長年の経験で培った絶妙な配合と手作業により作られている。

冒頭でも紹介した「村重」(450円)は香りが際立つ煎茶。「伊丹郷」(450円)は抹茶が多く配合された水出しの急須用深蒸し茶。「有岡城」(500円)は自然の玉露とも呼ばれる知覧茶「あさつゆ」という品種の茶葉で、甘みと同時に深い旨みが出るお茶だ。他にも香りを引き立たせた「至誠」と、甘みを重視して作られた「永遠」も特にお勧めとのこと(共に千円)。

抹茶に注目すると、香島園の茶葉で、甘みと同時に深い旨みが出るお茶だ。他にも香りを引き立たせた「至誠」と、甘みを重視して作られた「永遠」も特にお勧めとのこと(共に千円)。

伊丹で買ったお茶は一味違うと思ってもらえるように、常に「トップの味」を目指して芝田さんは今日も奮闘する。

(米田 ともこ)

※価格は全て税抜
伊丹市中央5-3-40
午前10時~午後6時
TEL.072-770-3344

ことば蔵10周年に寄せて

ことば蔵おめでとう! 10歳になるんやね。思えば、千僧の地から宮ノ前へ移る際は色々、ありましたな。紆余曲折あった中で、めでたしめでたし。

多くの人に愛され、ご利用いただいで10年! やっぱり思い出すのはLibrary of the Year 2016大賞受賞ですな。最終選考の4団体にノミネートされたが、本命視されていた図書館もあり(笑) そこで勝ち抜ける自信はなかったもので、最終選考のプレゼンは緊張の中でも楽しくでき

たことを覚えてます。

あとで聞いたことで、最終選考会は横浜で行われたのだが、その選考結果を当日、リアルタイムでことば蔵にて待ってくださった方が何人もいらっしやつたの聞き、よりこみ上げるものがあつたのを想いだした。ホントにことば蔵10周年おめでとう!

拙者、実は4月からことば蔵近くの長寿蔵ミュージアムでミッションをいただいている。7月にキックオフイベントを行い、いいスタートを切れた。長寿蔵ミュージアムで講座、体験もの、清酒と〇〇(最初は和菓子)の予定)など、アカデミックなものから、気軽に参加でき



伊丹市役所新庁舎 11月28日オープン

現在の伊丹市庁舎は、市民サービスの拠点として50年に亘り市民のみならず親しまれてきました。一方で耐震性の不足や老朽化、バリアフリーへの対応などといったさまざまな課題を抱えるなか、熊本地震を教訓として免震構造を備えた新庁舎が新しく生まれ変わります。

市民に愛され50年

庁舎の歴史をたどると、昭和47年(1972)に供用が始まった現庁舎は3代目となり、その建設地はかつて昆陽池に連なる今池の一部でした。今池は都市化による人口の増加と農地の減少に伴い、昭和38年から45年にかけて埋め立てられ、国道171号、千僧浄水場、そして現庁舎などの建設地として活用されました。現庁舎に併設された緑地広場はクスノキやサクラなどが植樹され、パブリックアールトとなる「白鳥の泉」といった石群と噴水などにより、市民の憩いの場として庁舎と共に長年に渡り親しまれてきました。



昭和35年撮影見聞・千僧航空写真(伊丹市立博物館蔵)

活用し建設されます。新庁舎の整備にあたっては、その設計を新国立競技場などを手掛けた世界的にも有名な建築家の隈研吾氏が担当。設計にあたっては「伊丹の歴史を現代につなぐ」というテーマを設計コンセプトの一つとしました。その新庁舎のデザインは、江戸時代に酒のまちとして栄え、多くの酒蔵が軒を並べた伊丹の街並みを継承すべく、白壁を基調としつつ木調パネルを活用するなど周辺環境に調和した陰影のある外観デザインとなっています。

新庁舎整備計画では、その建設地の歴史や文化を継承しつつ、時代に合わせた「リノベーション」をテーマの一つとしました。まず、緑地内のクスノキについて、北西の角は新庁舎におけるシンボルツリーとして活用し、伐採したクスノキは新庁舎の建設材料として活用するとともに、伊丹市ゆかりの現代彫刻家である三沢厚彦氏と棚田康司氏が手掛ける彫刻になって新庁舎に戻ってきます。

新たな魅力が広がる庁舎

その他、生育状態の良い木々は市内の公園に移植するとともに、里帰り桜、返礼のハナミズキ、台柿や市民を楽しませてきた枝垂れサクラは、伊丹市の伝統技術である接ぎ木によって新しく整備した今池緑地に植樹されます。

伊丹の歴史を継承
4代目となる新庁舎II写真上IIは、現庁舎と国道171号の間にあった緑地広場を

そのほか、生育状態の良い木々は市内の公園に移植するとともに、里帰り桜、返礼のハナミズキ、台柿や市民を楽しませてきた枝垂れサクラは、伊丹市の伝統技術である接ぎ木によって新しく整備した今池緑地に植樹されます。



林やよい
伊丹市在住。毎日新聞兵庫版にイラストエッセイ「くるまいまする」連載中。

元おかみの きまぐれコラム

柿、柿、柿

顔に水をいきなり掛けられ目を覚ました。何が何やらわからない。ぼーっとしている。とえらい見暮で父に怒られた。家が全焼するところだった。実は家族が寝た頃、柿をかごいっぱい盛って枕元に置いて腹ばいで寝て、ローソクの明かりで本を読みながら柿を食べていた。しかし、いつの間にか寝落ちしてしまい、ローソクの火が障子にうつって燃えたらしい。数居も30程焦っていた。十四、五才の頃、田舎ではおやつは季節の果物だった。私はトクに秋の柿が好き。栗、いちじく、枝豆、紫頭巾の黒豆もおいしい。豆の出荷の時期は手伝いに帰ります。でもコロナでこのところ帰っていませんが…

● 田んぼ道歩くのが好き柿熟れて
市立伊丹ミュージアムの柿衛文庫にある台柿は珍しい柿で、他にもことば蔵や、老松酒造さんの心持ちで市民に提供されている老松丹水の横、防災センター、宮西ガーデン、そして私の家にも東野の方から買った台柿の挿し木が一本植えてある。柿の花はいっぱい咲くがドサーと落ちる。これは「ジュエンドロップ」と言われる。大分あかくなったなあとと思うとカラスが狙っていて食べられる。対策で、黒い網をかぶせる。カラスが食べてまだ早いなあと半分残している。うーん腹が立つ。少し早い目にとって熟すまで待つてスプーンでとろーりとおいしいあの台柿は渋柿だ。トクにお酒のあとは最高!! (平 きみえ)

顔に水をいきなり掛けられ目を覚ました。何が何やらわからない。ぼーっとしている。とえらい見暮で父に怒られた。家が全焼するところだった。実は家族が寝た頃、柿をかごいっぱい盛って枕元に置いて腹ばいで寝て、ローソクの明かりで本を読みながら柿を食べていた。しかし、いつの間にか寝落ちしてしまい、ローソクの火が障子にうつって燃えたらしい。数居も30程焦っていた。十四、五才の頃、田舎ではおやつは季節の果物だった。私はトクに秋の柿が好き。栗、いちじく、枝豆、紫頭巾の黒豆もおいしい。豆の出荷の時期は手伝いに帰ります。でもコロナでこのところ帰っていませんが…

● 柿の木を倒す姉いて冬の雷
三十年前の秋、柿の成りたる日、故郷で柿を取りに行く事に。四人位だったと思うが、スーパの袋をたくさん持ち、竹竿を使ったり、手の届く枝は引っぱったりして、柿をとる。少し熟れたのはかぶりつき、百目柿、くぼ柿、富有柿、渋柿等の種類があった。父が挿し木をする時は必ずついでにいた。

秋は荒牧バラ公園II写真IIの「秋バラ」が見頃だ。バラは春(5月中旬から6月中旬)と秋(10月中旬から11月中旬)が見頃だが、季節によって咲き方に違いがある。春バラは見た目が華やかである一方、秋バラは一輪ずつが深い色合いで、落ち着いた雰囲気となる。また、気温が下がるため花持ちが良くなり、長期間楽しめるのも特徴だ。心地よい秋空の下、荒牧バラ公園で可憐なバラの鑑賞をはいかがでしょうか。

秋バラ見頃

荒牧バラ公園



「荒牧バラ公園」▽開園時間 9時～17時(季節により変更あり)▽休園日 火曜日(11月は毎日開園しています) 荒牧バラ公園 ホームページはこちら↓

